



# Level 10

2019年度  
第1回



検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。  
まず、下記の注意をよく読んでください。

## □ 検定上の注意 □

1. 検定時間は90分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、手をあげて監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と一緒に回収します。

受検番号

氏名

## 《問題Ⅰ》 次の問いに答えなさい。

**第一問** 次の問題文には(1)～(4)のような論理的に誤った箇所があります。それぞれ(1)～(4)に該当する誤った箇所の行数

を答え、間違いを抜き出し、正しい形に直しなさい。

- (1) 指示語の使い方が間違っている。
- (2) 助詞、助動詞の使い方が間違っている。
- (3) 接続語が間違っている。
- (4) 読点の打ち方が間違っている。

**第二問** 問題文を五つの段落に分けて、第二、三、四、五段落の最初の七文字（句読点・記号を含む）をそれぞれ抜き出

しなさい。

### 【問題文】

地球温暖化問題が議論されるようになって久しい。世界各国で様々な対策が講じられているにもかかわらず、二〇一七年の大気中の温室効果ガスのうち、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素の濃度は、いずれも過去最高を更新した。世界の年平均気温は、百年あたり一度以上の割合で上昇しており、特に一九九〇年以降は高温になる年が続出している。温暖化は、世界各地に様々な影響をもたらす。氷河の縮小にともなう海面水位の上昇、動植物の生息域の

高緯度化、農作物の栽培適地の变化や品質の低下、感染症媒介蚊の分布域の北上。さらに、近年では、集中豪雨や干ばつ、ハリケーンなど異常気象による、災害が世界中で多発しており、こうしたこともまた、温暖化の影響だとされている。温暖化対策というと、一般的に、温室効果ガスの排出を削減したり、植林により温室効果ガスの吸収量を増加させたりして、温暖化の進行を食い止めるための対策を想像する人が多いのではないだろうか。このような対策を「緩和」という。しかし、「緩和」策を最大限に実施したとしても、今後もある程度の温暖化の影響は避けられない。

なぜなら、最近では、被害を回避、軽減するための対処療法的な取り組みが必要だと考えられるようになってきた。日本では、二〇一八年十二月に「気候変動適応法」が施行され、この法律をもとに閣議決定された計画では、産業、国民生活、防災などの幅広い分野にわたり、自治体、企業、個人がそれぞれ取り組むべき温暖化への適応計画が示されている。たとえば、地域の特産物の品種改良を行い、高温に適した品種を開発することや、風水害に備えた堤防の強化や住民の避難の仕組み作りなどが挙げられる。あのように、温暖化の進行による影響や被害をできるだけ減らすための対策を、「適応」という。「緩和」策が、温室効果ガス濃度を抑え、自然・人間システム全般への影響を抑えるのに対して、「適応」策は、直接的に特定のシステムへの影響を抑えるのが特徴だ。したがって、「緩和」策の波及効果は広域的・横断的であり、世界全体で進めないと高い効果は得られない。一方で、「適応」策は地域的・個別的なものであり、温暖化の影響自体が和らげることはできない。「緩和」と「適応」は今後の温暖化対策の両輪なのである。

《問題Ⅱ》 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。当代随一の絵仏師良秀の娘は大殿様に仕えていました。ある時、

大殿様が良秀に地獄絵を描くように命じられたところ、良秀は実際にその光景を目の前で見せて下さいと答えました。

時刻は彼是真夜中にも近かったでございましょう。林泉をつゝんだ暗がひっそりと声を呑んで、一同のする息を窺っていると思う中には、唯かすかな夜風の渡る音がして、松明の煙がその度に煤臭い匂を送って参ります。大殿様は暫く黙って、この不思議な景色をじっと眺めていらっしやいましたが、やがて膝を御進めになりますと、「良秀、」と、鋭く御呼びかけになりました。

良秀は何やら御返事を致したようでもございりますが、私の耳には唯、唸るような声しか聞えて参りません。

「(1) 」

大殿様はこう仰有って、御側の者たちの方を流しめに御覧になりました。その時何か大殿様と御側の誰彼との間には、意味ありげな (a) が交されたようにも見受けましたが、これは或は私の気のせいかもしれません。すると良秀は畏る畏る頭を挙げて御縁の上を仰いだらしゅうございりますが、やはり何も申し上げずに控えて居ります。

「(2) 」——予はその車にこれから火をかけて、目のあたりに炎熱地獄を現せさせる心つもりじゃが。」

大殿様は又言を御止めになって、御側の者たちにめくばせをなさいました。それから急に苦々しい御調子で、

「(3) 」されば車に火をかけたら、(b) その女めは肉を焼き骨を焦して、四苦八苦の最期を

遂げるであろう。( ) (4) ( ) 雪のような肌が燃え爛れるのを見のがすな。黒髪が火の粉になって、舞い上るさまもよう見て置け。」

大殿様は三度口をおつぐみになりましたが、何を御思いになったのか、今度は唯肩を揺って、声も立てずに御笑いなさりながら、

「( ) (5) ( ) それく、簾を揚げて、良秀に中の女を見せて遣さぬか。」

仰を聞くと仕丁の一人は、片手に松明の火を高くかざしながら、つかくと車に近づくと、(c) 片手をさし伸ばして、簾をさらりと揚げて見せました。けたましく音を立てて燃える松明の光は、一しきり赤くゆらぎながら、忽ち狭いはこの中を鮮かに照し出しましたが、とこの上にむごたらしく、鎖にかけられた女房は——あ、誰か見違えを致しましょう。私は危く叫び声を立てようと致しました。

その時でございます。私と向いあっていた侍は慌しく身を起して、柄頭を片手に抑えながら、きつと良秀の方を睨みました。それに驚いて眺めますと、あの男はこの景色に、半ば正気を失ったのでございましょう。今まで下に蹲っていたのが、急に飛び立ったと思いますと、両手を前へ伸した儘、車の方へ思はず知らず走りかゝろうと致しました。唯( d ) 前にも申しました通り、遠い影の中に居りますので、顔貌ははつきりと分りません。しかしそう思ったのはほんの一瞬間で、色を失った良秀の顔は、いや、まるで何か目に見えない力が、宙へ吊り上げたような良秀の姿は、忽ちうす暗がりを持ち抜いてありくと眼前へ浮び上りました。娘を乗せた檳榔毛の車が、この時、「火をかけい」と云う大殿様の御言と共に、仕丁たちが投げる松明の火を浴びて炎々と燃え上ったのでございます。

火は見る／＼中に、車蓋をつゝみました。庇についた紫の流蘇が、煽られたようにさつと靡くと、その下から濛々と夜目にも白い煙が渦を巻いて、或は簾、或は袖、或は棟の金物が、一時に碎けて飛んだかと思う程、火の粉が雨のように舞い上る——その凄じさと云つたらごさいません。いや、それよりもめらめらと舌を吐いて袖格子に擦みながら、半空までも立ち昇る烈々とした炎の色は、まるで日輪が地に落ちて、天火が迸ったようだとても申しましようか。前に危く叫ぼうとした私も、今は全く魂を消して、唯茫然と口を開きながら、この恐ろしい光景を見守るより外はごさいませんでした。しかし親の良秀は——

良秀のその時の顔つきは、今でも私は忘れません。思わず知らず車の方へ駆け寄り寄ろうとしたあの男は、火が燃え上ると同時に、足を止めて、やはり手をさし伸した儘、食い入るばかりの眼つきをして、車をつゝむ焔煙を吸いつけられたように眺めて居りましたが、満身に浴びた火の光で、皺だらけな醜い顔は、髭の先までもよく見えます。が、その大きく見開いた眼の中と云い、引き歪めた唇のあたりと云い、或は又絶えず引き攣っている頬の肉の震えと云い、良秀の心に交々往来する恐れと悲しみと驚きとは、(e) 顔に描かれました。首を刎ねられる前の盗人でも、乃至は十王の庁へ引き出された、十逆五悪の罪人でも、あゝまで苦しそうな顔を致しますまい。これには(f) あの強力の侍でさえ、思はず色を変えて、畏る／＼大殿様の御顔を仰ぎました。

が、大殿様は緊く唇を御噛みになりながら、時々気味悪く御笑いになって、眼も放さずじつと車の方を御見つめになつていらつしゃいます。そうしてその車の中には——あゝ、私はその時、その車にどんな娘の姿を眺めたか、それを詳しく申し上げる勇氣は、(g) であろうとも思われません。あの煙に咽んで仰向けた顔の白さ、焔を掃ってふり乱れた髪長さ、それから又見る間に火と変わって行く、桜の唐衣の美しさ、——何と云う惨たらしい景色でございましたらう。

殊に夜風が一下ひとわりして、煙が向うへ靡いた時、赤い上に金粉を撒いたような、焰の中から浮き上って、髪を口に噛みながら、縛いましめの鎖も切れるばかり身悶みもたえをした有様は、地獄の（h）を目のあたりへ写し出したかと疑われて、私始め強力の侍までおのづと身の毛がよだちました。

芥川龍之介「地獄変」

第一問 （a） ～ （h） に入る言葉を次のア～クの中から選び、記号で答えなさい。

ア 到底    イ 歴々と    ウ 生憎    エ 必定    オ 業苦    カ 矢庭に  
キ 微笑    ク 流石に

第二問 （1） ～ （5） に入るセリフを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 末代までもない観物じゃ。予もここで見物しよう。  
イ その内には罪人の女房が一人、縛いましめた儘まま、乗せてある。  
ウ 良秀。今宵はその方の望み通り、車に火をかけて見せて遣わそう。  
エ その方が屏風びょうぶを仕上げるには、又とないよい手本じゃ。  
オ よう見い。それは予が日頃乗る車じゃ。その方も覚えがあらう。

**第三問** 次の一文を元の場所に戻し、その直後の七字を抜き出しなさい。

きらびやかなぬいのある桜の唐衣にすべらかし黒髪が艶やかに垂れて、うちかたむいた黄金の釵さいしも美しく輝いて見えました。が、身なりこそ違へ、小造りな体つきは、色の白い頸うなじのあたりは、そうしてあの寂しい位つゝましやかな横顔は、良秀の娘に相違ちがいありません。

**第四問** 傍線部「思わず知らず車の方へ駆け寄ろうとしたあの男は、火が燃え上ると同時に、足を止めて、やはり手を

さし伸まじた儘まま、食い入るばかりの眼つきをして、車をつゝむ焰煙えんえんを吸いつけられたように眺めて居りましたが、満身に浴びた火の光で、皺しわだらけな醜い顔は、髭ひげの先までもよく見えます」とありますが、この時の良秀の心情を五十字以内（句読点を含む）で説明しなさい。

《問題Ⅲ》 次の問いに答えなさい。

第一問 次の言葉を並べ変えて、一文を作りなさい。

- (1) 人間で 周囲の 整理する ある 情報を のが 論理で 。
- (2) 気持ち 察し を 日本人 会話 する ながら は の 相手 を 。

第二問 次の語句を並べかえて一文を作成しなさい。ただし、それぞれに文には、不要な語句が二つずつあります。

- (1) 種の およぶ 保護する 百万に 絶滅の 人間と 危機に 瀕<sup>ひん</sup>する 数は 。
- (2) 心理 正しく 前提に 判断が 道德教育は 判断する 能力が なる 。

第三問 次の言葉を並べ変えて、一文を作りなさい。

- (1) か 日 持 朝 だ 小 ら 良 春 気 ち い の 和 。
- (2) と 鬼 し 彼 こ 心 新 は 暗 い に だ 疑 。

**第四問** 次の文章を読んで、( ) に当てはまる二字熟語を、後の漢字を組み合わせて答えなさい。

漫画やアニメを原作とした舞台には独特の難しさがある。原作を読んだり視聴したりした観客の中で、作品の視覚的イメージが完成しているからだ。舞台上にそうした( )の世界を映し出すには、相応の工夫が必要となる。

者 像 空 美 実 役 表 現 架

**第五問** 次の文章を読んで、(1) (2) に当てはまる言葉を、後のア～キの中から選び、記号で答えなさい。

人は自分の有能さを誇り、その才能を周囲に(1)しようとしがちである。だが、少し待って欲しい。

あなたに圧倒された周囲の人たちの目は、たちまち(2)に変わるのだ。彼等は絶えずあなたを観察している。その目で観察されると、僅かな過失でも拡大されて、見逃すことができないう大きな過失となる。

どんな優秀な人間でも、いつかは過失を犯すものだ、その時は、誰も容赦することなく、あなたを非難、攻撃するだろう。

ア 固持 イ 堅持 ウ 顕示 エ 圧倒 オ 望遠鏡 カ 内視鏡 キ 顕微鏡

《問題Ⅳ》 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

木の葉の間から高い窓が見えて、その窓の隅からケーベル先生の頭が見えた。傍から濃い藍色の煙が立った。先生は煙草を呑んでいるなど余は安倍君に云った。

この前ここを通ったのはいつだか忘れてしまったが、今日見るとわずかの間にもうだいぶ様子が違っている。甲武線の崖上は角並新らしい立派な家に建て易えられていずれも伝統的日本の産み出した富の威力と切り放す事のできない門構ばかりである。その中に先生の住居だけが過去の（a）のごとくたった一軒古ぼけたなりで残っている。先生はこの燻ぶり返った家の書齋に這入ったなり滅多に外へ出た事がない。その書齋はとりもなおさず先生の頭が見えた木の葉の間の高い所であった。

（中略）

余は先生に一人で淋しくはありませんかと聞いたら、先生は少しも淋しくはないと答えられた。西洋へ帰りたくはありませんかと尋ねたら、それほど西洋が好いとも思わない、（1）日本には演奏会と芝居と図書館と画館がないのが困る、それだけが不便だと云われた。一年ぐらい暇を貰って遊んで来てはどうですと促がして見たら、そりゃ無論やって貰える、けれどもそれは好まない。私がもし日本を離れる事があるとするれば、永久に離れる。けっして二度とは帰って来ないと云われた。

先生はこういう風にそれほど故郷を慕う様子もなく、あながち（b）を嫌う気色もなく、自分の性格とは容れにくいほどに矛盾な乱雑な（c）にして安っぽいいわゆる新時代の世態が、周囲の過渡層の底からしだいしだい

に浮き上って、自分をその中心に陥落せしめねばやまぬ勢を得つつ進むのを、日ごと眼前に目撃しながら、それを別世界に起る風馬牛の現象のごとくよそに見て、極めて落ちついた十八年を吾邦で過ごされた。先生の生活はそつと（d）の巷ちまたに棄てられた希臘ギリシャの彫刻に血が通い出したようなものである。雑踏の中に己れを動かしていかにも静かである。先生の踏む靴の底には（e）を嚙かむ鋏びょうの響がない。先生は紀元前の（f）の人のごとくに、しなやかな革で作ったサンダルを穿はいておとなしく電車の傍を歩いている。

先生は昔鳥からすを飼っておられた。どこから来たか分らないのを餌をやって放し飼にしたのである。先生と鳥とは妙な因縁に聞える。先生が大学の図書館で書架の中からポーの全集を引きおろしたのを見たのは昔の事である。先生はポーもホフマンも好きなのだと言う。この夕ゆうべその鳥の事を思い出して、あの鳥はどうなりましたと聞いたら、あれは死にました、凍えて死にました。寒い晩に庭の木の枝に留とどまったまんま、翌日あくるひになると死んでいましたと答えられた。

鳥のついでに蝙蝠こうもりの話が出た。安倍君が蝙蝠は懐疑な鳥だと云うから、なぜと反問したら、でも薄暗がりにはたはた飛んでいるからと謎のような答をした。余は蝙蝠の翼が好だと云った。先生はあれは悪魔の翼だと云った。（2）画にある悪魔はいつでも蝙蝠の羽根を背負っている。

その時夕暮の窓際に近く日暮しが来て朗らに鋭い声を立てたので、卓を囲んだ四人はしばらくそれに耳を傾けた。あの鳴声にも以太利イタリヤの連想があるでしょうと余は先生に尋ねた。そこで外面そとから射す夕暮に近い明りを受けて始めて先生の顔を熟視した。これは先生が少し前に蜥蜴とかげが美しくいと云ったので、青く澄んだ以太利の空を思い出させやしませんかと聞いたたら、そうだと答えられたからである。しかし日暮しの時には、先生は少し首を傾むけて、いや彼あれは以太利じゃない、どうも以太利では聞いた事がないように思うと云われた。

余らは熱い都の中心に誤って点ぜられたとも見える古い家の中で、静かにこんな話をした。(3) 菊の話と椿すずらんの話と鈴蘭すずらんの話をした。果物の話もした。その果物のうちでもっとも香りの高い遠い国から来たレモンの露を搾って水に滴らして飲んだ。珈琲コーヒーも飲んだ。すべての飲料のうちで珈琲が一番旨いという先生の嗜好しこうも聞いた。それから静かな夜の中に安倍君と二人で出た。

先生の顔が花やかな演奏会に見えなくなってから、(4) よほどになる。先生はピアノに手を触れる事すら日本に来ては口外せぬつもりであったと云う。先生は(5) 浮いた事が嫌なのである。すべての演奏会を謝絶した先生は、ただ自分の部屋で自分の気に向いたときだけ楽器の前に坐る、そうして自分の音楽を自分だけで聞いている。そのほかにはただ書物を読んでいる。

文科大学へ行って、ここで一番人格の高い教授は誰だと聞いたら、百人の学生が九十人までは、数ある日本の教授の名を口にする前に、まずフォン・ケーベルと答えるだろう。かほどに多くの学生から尊敬される先生は、日本の学生に対して終始かわ渝らざる興味を抱いて、十八年の長い間哲学の講義を続けている。先生が疾とくに索寞さくぼくたる日本を去るべくして、いまだに去らないのは、実にこの愛すべき学生あるがためである。

夏目漱石「ケーベル先生」

**第一問** 次の一文を元の場所に戻して、その直後の五字(句読点・記号等を含む)を抜き出さない。

この二つを頭の中で結びつけると一種の気持が起る。

**第二問** 問題文中に論理的におかしい語があります。その語を二字の漢字で抜き出し、正しい二字の漢字を書きなさい。

**第三問** 問題文中に余分な一文があります。その一文の初めの五字（句読点・記号等を含む）を抜き出さなさい。

**第四問** (1) (5) に入る言葉を、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア もう      イ それから      ウ それほど      エ しかし      オ なるほど

**第五問** (a) (f) に入る言葉を、次のア～カの中から選び、記号で答えなさい。

ア 煤煙ばいえん      イ 日本      ウ 記念      エ 空虚      オ 敷石      カ 半島

《問題V》 論理的な文章とは、不特定多数の読者に向けて、自分の主張をなるべく誤解のないように筋道を立て、しか

も、正確に伝えようとしたものです。自分が思っていることを、すべての読者が同じように思っているとは限らないので、自分の主張に対しては論証責任が生じます。以上を念頭に置いて、次の問いに答えなさい。

日本における在留外国人数は近年増え続け、二〇一八年末に二七三万一〇九三人となり、前年末より六・六%増加して過去最高となりました。今年四月には、新たな在留資格である「特定技能<sup>\*</sup>」が創設され、介護、農業、建設、外食等の十四業種で外国人労働者の受け入れが進められることになったため、在留外国人は、今後ますます増加することが予測されています。一方で、多くの外国人にとって、日本で円滑なコミュニケーションを取るのは難しく、安心して日本に居住するためには課題があると言えます。

在留外国人の増加による日本社会への影響および課題について、三百字以内（句読点を含む）で論じなさい。ただし、後の①～⑥の言葉をすべて使用すること。

※在留資格…外国人が日本に在留することについて、法で定められている一定の資格。

【使用する言葉】 ① 少子高齢化 ② 労働力 ③ 宗教 ④ 文化 ⑤ 民族 ⑥ 言語

（本検定はあくまで論理力を試すものであって、特定の主張を支持するものではありません。様々な重要な問題に対して、様々な立場を理解、整理し、自分で考えることの第一歩とします。）